

事業所名： グループホーム ふきのとう北松園 2階ユニット

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100220		
法人名	有限会社 エムズ		
事業所名	グループホーム ふきのとう北松園 2階ユニット		
所在地	〒020-0105 盛岡市北松園4丁目36番87号		
自己評価作成日	令和7年12月18日	評価結果市町村受理日	令和8年3月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念のもと入居者様、職員と共に日々笑顔で過ごせるように環境づくりをしています。また、生活リハビリのため食事の準備や片付け、洗濯物の片付けなど、利用者様の個々の能力に合わせてできる事をしていただけるようお手伝いをしています。感染症対策のため面会は玄関先となりますが人数の制限などは徐々に緩和しています。利用者の皆様に楽しんでいただくため、春は花見ドライブ、夏は七夕会、秋は敬老会、冬はクリスマス会等です。職員の知識、技術向上のため毎月グループ全体研修を行っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設13年目の2ユニットの事業所は、盛岡市郊外の高台にある閑静な住宅地に立地し、緑と自然に恵まれ晴れた日には岩手山を一望できる。木造2階建て、広いホールに多くの陽が差し込み、敷地も広く、2カ所の自家菜園では季節に応じた野菜を利用者と一緒「栽培して土のふれあい」を大切にしている。「共に寄り添い、共に笑顔、その人らしく過ごせる環境づくり」を基本理念とし、その人らしくゆったりと、のんびりと過ごしていただけるよう「利用者担当者」を定め、利用者へ寄り添った様々な支援が行われている。また「介護理念」と「倫理規定」を作成し、利用者の尊厳などの権利に関する規定を定め、適宜研修を行うなどして職員の資質の向上に努めている。運営推進会議においては、活発な議論が行われるとともに、それぞれの委員から各種情報提供も行われており、展示会への作品展示やスローショッピングの参加などが検討されている。一方、感染症対策や最近のクマ出没対応など、利用者の外出等を制限せざるを得ない状況に苦慮しており、今後の課題として取り組むこととしている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会		
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号		
訪問調査日	令和8年1月13日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている(参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている(参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	各ユニットに掲示しており、日々のケアに取り組んでいる。	運営理念の他に介護理念と倫理規定を定め、玄関などに掲示しているほか、毎日の申し送りの際に理念を唱和し、職員研修等で倫理規定の周知を図っている。「共に寄り添い、共に笑顔、その人らしく過ごせる環境づくりに努めます」の運営理念に基づき、利用者それぞれのペースに応じた、ゆっくりと丁寧な支援に努めており、家族から感謝の声も聞かれる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している。	自治会に加入しており、感染症対応の範囲内で地域行事の参加や一斉清掃など地域の一人として交流している。	町内会に加入し、町内清掃に参加しているほか、運営推進委員に地域の代表を選任するなど、地域とのつながりに努めている。地区行事や保育園行事の案内があるが、コロナ禍以降参加を見合せている。今年度は、専門校生の実習受入れを再開し、さらに地域の祭りへの参加や小中学校との交流再会を検討している。	利用者が多様で豊かな生活を送るためには、事業所が地域との窓口を広げる取り組みが大切です。感染症に十分配慮しながら、ボランティアの受け入れや保育園、小中学校、町内会との交流の再開を検討される事を期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	専門学校からの実習生の受け入れをし、認知症の方の支援方法を伝えている。運営推進会議で地域の方々に報告している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	利用者状況、活動報告、研修報告、事故報告等している。また、地域の様々な情報や意見をいただきサービス向上に活かしている。	家族、町内会副会長、民生委員、地域包括支援センター職員を委員として、2か月に1回定期的に開催している。会議では、利用者の状況、行事等の活動報告、インシデントなどが報告されているほか、各種研修の受講内容もフィードバックされている。委員からの意見や情報提供が多く、利用者の作品展示やスローショッピングの実施など、委員からの情報を基に活発な話し合いが行われている。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ふきのとう北松園 2階ユニット

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	介護保険の申請、更新時の連絡と運営推進会議の議事録を持参し、関係づくりに努めている。	要介護認定の申請や更新手続きを中心に、施設長を窓口として、市介護保険課と日頃から協力関係が築かれ連携が図られている。地域包括支援センターからも支援に関する相談・助言のほか、各種情報の提供を受けている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を設置し、3か月ごとに委員会を開催している。研修は年1回行い、拘束がもたらす弊害やスピーチロック等を理解し、拘束しないケアに取り組んでいる。	「身体拘束適正化指針」を策定し、身体拘束委員会3か月に1回開催し、利用者の状況に応じた環境づくりなどを話し合っている。また、年1回研修会を開催するほか、スピーチロックについては、日々の支援の中での気づきを職員相互で確認しあい、職員会議で共有し正しく理解して支援できるように取り組んでいる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている。	法人全体で1回研修を行い、利用者が安心して生活できるよう話し合い、意識向上、防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修会を行い、理解している。現在、この制度を利用している方はいない。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ふきのとう北松園 2階ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の前に必ず、事前説明を行っている。契約書を十分に説明し疑問点を尋ね、理解、納得された上で締結している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	気軽に話せる雰囲気づくりに努めている。運営推進会議の際など意見、要望をうかがうい、運営に反映させている。	居室担当者を定め、「ふきのとうだより」として利用者個々の生活状況を伝えるとともに、広報誌「ふきのとう」を発行して行事等の活動状況をお知らせしている。訪問時や電話等で家族の希望等を伺っており、家族からは「温かい便り」に感謝する声や行事などがわかりやすいとの意見もある。また言語表現が困難な方や、帰宅願望など実施が難しいものについては、家族と協力して要望を推察したり、代替策を検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	申し送り、ユニット会議の他、個別に話をする時間を作り職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映できるものがあるか検討している。	毎月のユニット会議で意見や提案を募り、申し送り時にも職員から意見等を聴取している。イベントや企画の提案、入浴などの支援方法、設備・機器の修繕などについて出されている。施設長で対応可能なものはすぐに取り入れ、権限を越えるものは本部に報告している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員個々の努力、勤務状況を把握し、昇給、賞与に勘案している。職員の考えや意向を聞き、職場環境の整備に努めている。希望休や有休も可能な限り応えている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ふきのとう北松園 2階ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人全体で月1回研修を行っている。経験やスキルに応じて外部研修や資格取得に向け研修を受ける機会の確保に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	コロナウィルス感染症対策のため行っていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	申し込みや事前調査の際には、本人の要望、不安等を把握できるように努めている。本人のペースに合わせ、話しやすい雰囲気や関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	在宅での様子や入居までの経緯を伺い、不安なことや要望、また介護疲れや様々な思いに寄り添い話しやすい雰囲気や関係づくりに努めている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ふきのとう北松園 2階ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人、家族の意向を伺い、必要時には担当ケアマネージャーとの相談をお勧めしている。また、緊急を要する場合は他の施設を紹介する等柔軟な対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員が援助するだけでなく、日常的に家事等の一人ひとりの力に応じたことを一緒に行い、共に生活しているという関係性を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	日頃の様子を便りや電話、来所時にお伝えし、相談し意見を出し合い本人が穏やかに生活できるよう支えていく関係を築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	手紙や年賀状、利用者個人の携帯電話の使用などで関係が途切れないよう支援している。	毎月家族と通院する方や友人等が訪れる方などもいるものの、コロナ禍以降外出・外泊を制限しており、「なじみ」との関係継続が難しい状況になってきている。花見や紅葉狩りなどは利用者の希望する場所を選定したり、「さんさ踊り」や「チャグチャグ馬っこ」などの地域行事等の映像を觀賞したり、家族から懐かしい写真を提供していただくなどの工夫をしている。また、定期的に訪れる看護師や理容師などが新しく馴染みとなっている方もいる。	利用者が大切にしてきた馴染みの人や場所の関係継続は、日々の利用者本人の生きがいのためにも、大変重要なものです。今後も感染症等に十分に配慮しつつ、面会や外出等の機会をより一層確保していくことを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	会話や家事の役割を通して円滑な人間関係を築けるよう支援している。職員が間に入り、利用者様同士の会話が円滑になるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退居時に今後もいつでも相談を受ける事を伝え、退居後もこちらから様子を伺ったり、ご家族からの連絡で様子を聞くことができたりと関係が継続できるよう努めている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入浴時などの1対1になった時の時間で思いや希望を伺い、また日々の会話の様子や行動、表情から汲み取り記録し、またカンファレンスにて検討して職員全員で共有し日々のケアに活かしている。	職員は日常のふれあいの中で声掛けを行っている。意思疎通が難しい方については、家族からの情報や表情・態度などから思いを汲み取っている。生活パターンを強要することはせず、特に入浴や食べ物に関しては柔軟に対応している。また、把握した思いや意向は、申し送りで伝えたり気付きノートに記録し、職員全員で共有して対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人、家族やこれまで関わってきた事業所からも情報収集し、馴染みの暮らし方等の把握に努めている。その方の職歴や趣味を取り入れた活動を取り込んでいる。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ふきのとう北松園 2階ユニット

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人ひとりのペースで生活できるよう支援し、毎日の関わりを申し送りや気づきノート等を活用し現状の把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	密にスタッフ間でカンファレンスを行っている。ケアミーティングや担当者会議、毎日の申し送りでの情報をプランに反映し、また本人や家族の意向を確認している。医師、訪問看護師の助言も参考にして現状に合ったプランを作成している。	計画作成当者がモニタリングを行い、ケアカンファレンスや担当者会議での居宅担当等の意見、「気づきノート」等の各種記録を参考に、原則6か月ごとに見直している。計画案を本人及び家族に示し、意見等を確認するとともに、かかりつけ医や訪問看護師に適宜助言等を求めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日の申し送りや経過記録、気づきノートの活用で情報共有しケアに活かしている。3ヶ月ごとのモニタリングを実施し、必要時にはケアの見直しを行っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人、家族の希望により訪問看護、福祉用具、介護タクシー、訪問理容などその時々生まれるニーズに対応し、サービスの多機能化に取り組んでいる。			

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ふきのとう北松園 2階ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	松園という恵まれた地域資源の中で本人が豊かな暮らしを楽しめるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	通院はご家族にお願いをしている。通院対応ができない事情の方には訪問診療を勧めている。定期通院等、主治医宛に受診連絡票を用意し、事情ごとに主治医に連絡をして助言をいただいたり、適切な治療が受けられるよう看護師、ソーシャルワーカー等との連携を密にしている。	入居前の主治医をかかりつけ医としている。通院は原則家族が行い、状況に応じて職員が同行している。主治医には連絡用メモを作成して利用者の体調や生活状況を伝えている。通院困難な8名(1階5名、2階3名)は訪問診療を受診している。また、訪問看護師が毎週訪問し、緊急時の24時間体制も整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護と連携し、週1回体調管理で訪問していただいている。訪問看護ノートを活用し体調変化を細かく報告、相談し助言をいただき、状態により通院の判断や主治医へ相談する事もある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には利用者の情報提供を、入院中は病院関係者と情報交換や相談を密に行い、利用者、家族が安心して過ごせるよう関係づくりに努めている。		

事業所名 : グループホーム ふきのとう北松園 2階ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居の段階でグループホームでできる事、できない事と指針の説明を本人とご家族に行い、話し合いをし意向を伺っている。状況に応じてその都度意向を確認し、関係者と連携を密に図り、支援に取り組んでいる。	事業所として、重度化や終末期に向けた指針を作成し、契約時に利用者と家族に説明している。また、重度化が進んだ時点で、支援内容や他の施設の利用などについて再度家族と協議している。これまで3名の看取りを行っているが、ここ1年はない。研修を実施して職員の資質向上に努めているが、医療的支援を十分に行える体制にないことが今後の課題としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	年一回救急対応の研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	日中と夜間を想定した火災訓練をそれぞれ年一回行っている。地震、風水害が起きた際の動きを年一回確認している。	ハザードマップの対象区域にはなっていないことから、火災を想定した避難訓練を夜間想定訓練も含め年2回実施している。BCPの作成、職員全員が迅速に駆けつけることができる連絡体制整備、3日分の水・食料等の備蓄などの対策も講じている。自家発電により電力の確保もできている。また、緊急時には、必要に応じ地域の方も受け入れることとしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	人生の先輩、1人の人間として尊厳を傷つけないように向き合い言葉掛けや対応を心掛けている。接遇、プライバシーの研修を行い、振り返りもしている。	排泄や入浴場面での配慮はもとより、日常でのちょっとした失敗や想定外の行動に対しても、職員が大声を出したり、指示的な言動をとることを避けるようにしている。また、事前の同意確認を原則としており、利用者の尊厳への配慮に心掛けた支援に努めている。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ふきのとう北松園 2階ユニット

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	飲み物や活動など様々な場面でご本人に選択をしていただいたり、思いを表せない方は表情や仕草等から思いを汲み取り自己決定に近づけるよう取り組んでいる。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ご本人の希望を聞きながら利用者のペースを理解し、希望に添えるよう、かつメリハリをつけられるように支援している。難しい場合はカンファレンスなどを行い、少しでも希望に近づけるように検討している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	衣類やヘアスタイルをお聞きしている。鏡を見ていただくなど声をかけている。行事では化粧を喜ばれたり、いつまでもおしゃれを楽しめるよう支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事前の口腔体操、献立の紹介をしている。日々の盛り付け、食器拭きなどの家事の他、誕生会には本人からのリクエストでおやつを考えたり、行事でぎょうざや芋の子汁など馴染みのものを調理する機会を作っている。ご家族からの差し入れをしていただいたり、楽しめるよう工夫している。また本人の状態によって食事形態や食器を検討している。誕生日の方の希望に沿ったおやつ提供に努めている。	主食以外は外注としているが、利用者個々の要望や状態に応じて職員が刻みやとろみ、量の調整を行っている。また、季節ごとの行事や誕生会などでは、本人の希望や季節に応じた食事を手作りし、おやつ作りも行っている。自家栽培した野菜等を食材にした料理を特に喜んでいる。利用者は、調理や配膳なども職員と一緒にやっている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ふきのとう北松園 2階ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	盛り付け、形態、量など一人ひとりの状態に合わせて対応している。食事の様子を情報共有し、課題を見つけ改善に向けて話し合っている。医療面からの助言をいただきながら支援している。毎月体重測定を実施している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアを促している。一人ひとりの状態に合わせて対応している。口腔内を観察し必要に応じて介助している。義歯は洗浄液につけ、清潔保持ができています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し失敗を減らすよう努めている。身体機能に応じた対応を行っている。	自立者は、1階、2階のユニット利用者のうち、合わせて12名である。布パンツ使用は半数で、他は紙パンツにパットを併用している。そのほか、夜間ポータブルトイレを使用している方は2名となっている。排泄チェックシートを作成し、誘導のタイミングや方法、便秘の有無などを職員間で共有して対応している。誘導の声掛け時や排泄失敗時には、本人の心情等への配慮を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分、運動、薬の影響などを理解し対応等検討して予防に努めている。食事の工夫、水分摂取を促している。排泄困難時は腹部マッサージをしたり温タオル等で下腹部を暖めている。日々の体操で腹部マッサージを取り入れている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ふきのとう北松園 2階ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	入浴はある程度決まっているが利用者の気持ちに沿って対応している。入浴中は、なるべく希望に添えるよう湯加減、空調にも配慮している。会話を楽しみ、入浴を楽しめるように支援している。	毎日入浴できる状態にあり、週2回の入浴を確保しており、利用者の希望等により入浴日時を変更することもできる。入浴後の保湿や水分補給にも時間をかけるなど、リラックスして入浴を楽しむことができるよう工夫している。また、入浴介護時における身体状況の確認、衣服の着脱時等におけるプライバシーへの配慮も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中に個々の居室や共有スペースで休んでいたいている。休みたいと思った時に休めるよう状況に応じて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の説明書を確認し理解している。服用時は必ず職員2名でダブルチェックを行い、飲み込むまでの確認を徹底している。薬の変更時に体調等の変化が見られた時は、主治医や訪問看護に相談して指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	日々の関わりや一人ひとりの生活歴を把握し、植木の水やり、新聞を読む、散歩や外の景色を眺めるなど楽しく気分転換ができるように支援している。また本人のその時の気分によって役割をやる、やらないを選択できるようにしている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ふきのとう北松園 2階ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	体調や天候に合わせて散歩している。花見ドライブは利用者に場所の希望を聞いている。	隣の公園や敷地内を散歩しているが、今年はクマの出没で制限するこもあった。また、花壇や自家菜園に出かけ、水遣りや野菜栽培を手伝っている方もいる。コロナ禍以降外出希望も少なくなっているが、花見や紅葉狩りなど季節に応じた外出や近隣へのドライブなどを行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	トラブル防止のため現在金銭管理は行っていないが、入居からお金を所持している利用者の場合は本人が管理し、使用したりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯電話の使用の支援や、家族、親戚からのお手紙を読んで差し上げたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有空間で過ごされることが多いため整理整頓に努め、清潔を保ち消毒もしている。室温、湿度、太陽光などにも配慮し居心地よく過ごせる空間を工夫している。	共有スペースは広く、クリーム色と木彫り調で統一され、明るく、落ち着いた感じとなっている。エアコン、加湿器等により快適な温度管理をしている。採光も十分にあり、また外の光を浴びることができるベランダもある。ホールには、テレビ、テーブル、ソファなどがあり、壁などには季節を感じられる装飾や利用者が作成したちぎり絵が展示されている。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ふきのとう北松園 2階ユニット

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	横になったり足を伸ばしたりできるソファがあり、交流ホールで景色を眺めるなど思い思い好きな場所で過ごしていただけるよう工夫している。広い空間を活用している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	常に清潔になるよう努めている。本人の馴染みの物、家族写真などを飾っている。テレビを置いている方もおり、自分の時間を大切に居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	ベッド、クローゼット、タンス、エアコン及びパネルヒーターが設置され、テレビなどは自由に持ち込めることとしている。居室空間はゆったり確保されて、思い思いに写真や絵などが飾られている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	障害となるものなどはその都度片付け、お手伝いをしていただくなど本人の意向や行動を妨げないよう環境整備をしている。			